

次年度以降の検討項目（案）

「研修体系の見直し・検討」、「研修指導要領及び標準テキスト等の整備」、「能力評価（個人/組織）の仕組みの検討」、「e ラーニングの開発・運営」、「人的ネットワークの活性化」、「知識体系の整備」の検討を通じて新たに示された課題を含め、次の項目について次年度以降も引き続き検討する。

【次年度以降の検討項目】

1. 研修体系の見直し・検討

研修体系は継続的に見直し、内容の充実を図る。特に、令和5年度からの新しい研修の実施に向けて、有明の丘研修では受講者の職位に応じた内容の充実・拡大と受講者拡大等の検討が、地域研修についてはより地域に根差した研修の実施体制の検討が必要である。また、研修体系の見直しと併せて、令和4年度版の研修指導要領（案）を作成するとともに、必要に応じてカリキュラムと標準テキストを見直す。さらに、今年度整理された論点に基づいて、トレーナートレーニングの在り方の検討を図るべきである。

2. 能力評価（個人/組織）の仕組みの検討

研修修了者（個人）及び組織向けのアンケート及びヒアリング調査を引き続き実施し、有明の丘研修における効果測定の見直しを行う。また、テスト・テストバッテリーの見直しや、修了歴の保管等、研修修了者の能力を保証する仕組みを検討する。さらに、研修の効果測定と能力評価（個人/組織）を繋ぐ仕組みを検討するとともに、地域防災マネージャー等、その他資格との連携について検討する。

3. 防災スペシャリスト養成 e ラーニングの開発・運営

今年度の検討及びコンテンツ公開・作成状況を踏まえ、防災 SP 養成 e ラーニング検討 WG の設置、新規コンテンツの公開、公開済みテーマの維持管理・評価・改善を行う。また、視聴状況に応じたコンテンツの見直しを実施する。

4. 人的ネットワークの活性化

研修の演習等で培われた人的ネットワーク構築の取組み等を活かし、意見交換や共同作業などの機会を利用し人的ネットワーク形成の強化・充実を図ることに加え、オンラインフォーラム・交流会等、研修修了者による人的交流の機会確保や活性化促進の仕組みを検討する必要がある。

5. 知識体系の整備

現在の知識体系（案）の内容を、見直し後の研修体系等に基づき適正化及び充実化を図る必要がある。